

探究する単元をつくろう⑧

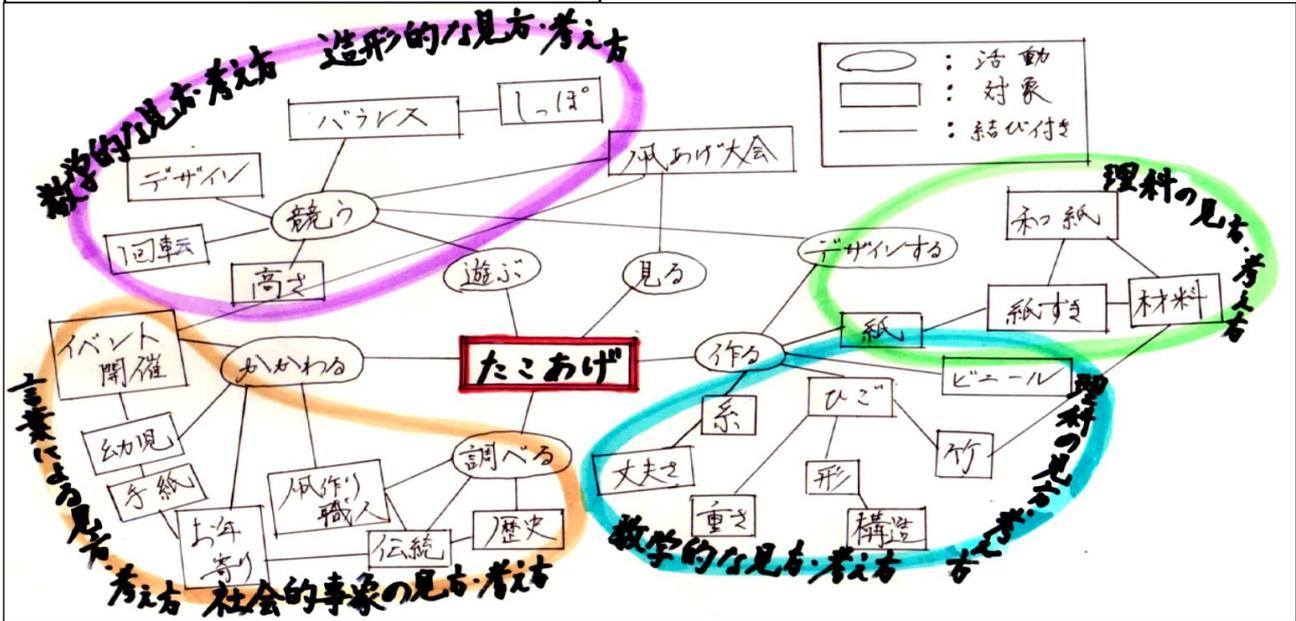
～ウェビングマップと思考のスケッチで

子どもの探究に思いを巡らそう～

総合編

総合的な学習の時間は、子どもにとって切実感のある課題解決や探究的な学習の過程を基に単元を構成するため、その過程において取り扱う内容は一つとは限らず、一つの単元の中で複数の内容が見込まれます。そこで、下のようなウェビングマップ等の拡散的に探索する手法を用いて、教師自身が探究者となって題材の可能性や発展性を探ることで、対象に対する子どもの問いや願いを共感的に見ることが出来ます。また、このような手法を複数の教職員で行うとより効果的です。

ウェビングマップ(『凧あげ』を題材にした例)

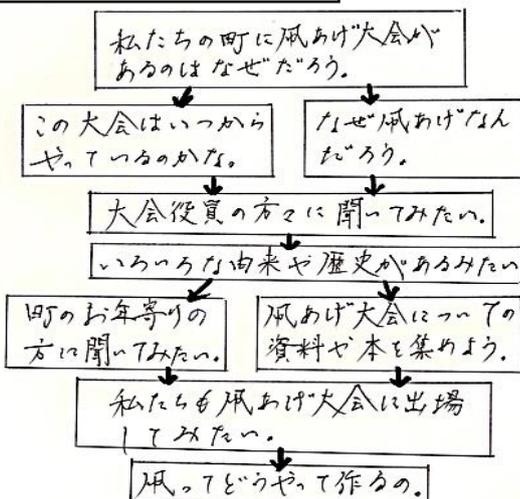


【ウェビングマップの手順】

- (1) 中央に核となる「対象」や「題材」を書く。
 - (2) (1)から連想する活動や新たな対象を思いつくだけ書き出す。
 - (3) 結び付きそうな対象や発展していきそうな活動を線で結ぶ。
 - (4) 結んだ対象や活動をどのようなまとまりとして見ることができそうか考える。
- (上の例は、各教科等の見方・考え方を働かせた学習が展開できそうなまとまりでくりました)

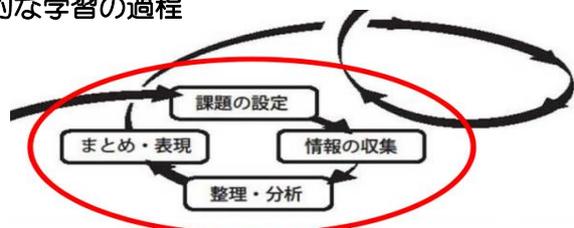
次に一人の子どもの探究の姿を思い描きながら、その子が歩みそうな思考の流れを下のような思考のスケッチでザックリ書いてみます。

思考のスケッチ



「ウェビングマップ」や「思考のスケッチ」を基に、下図のような探究的な学習の過程になり得るかどうか吟味しながら具体的な単元構想をします。この学習の過程は固定的なものではなく、順序が入れ替わったり、ある活動が重点的に行われたりします。子どもとともに計画を立てたり、修正したりしながら単元をつくっていきましょう。

探究的な学習の過程



研修講座から

過去の自然災害と現代の防災対策から学ぶ

～善光寺地震の爪痕をたどってみよう～

(11月14日)

この講座は長野地方気象台様の協力のもと、気象・地震・気候変動等についての最新の観測方法によるデータに基づき、私たちの生活への影響についての知見を得て、防災・減災に対する意識を高めるための授業づくりを考えることをねらいとして、長野市城山公民館を主会場に開講され、13名の方が受講されました。

<講座の主な内容>

- | | | |
|-------------------------|---|----------------------|
| (講義)「地震災害から身を守るためには」 | } | 長野地方気象台 職員 |
| (講義)「気象災害に備えて」 | | |
| (現地見学)「長野地方気象台の見学」 | | |
| (講義)「善光寺地震の教訓と自然災害への対応」 | } | 信州大学名誉教授
赤羽 貞幸 先生 |
| (巡検)「善光寺地震の爪痕をたどる」 | | |



◆◆受講者ふりかえりから◆◆

- ・情報を得て、よりよい判断をするための力をつけていく必要があるなあと思いました。
- ・自分の居住地が、かつてどのような土地利用をされ、地形であるかを知る事が大切だと思いました。
- ・過去に起こったということは、これからは起こる可能性があるということ肝に銘じておきたい。

受講風景



善光寺で、地震の痕跡を探しました。



長野盆地の地形の成り立ちを学びました。

フィールドワークを通して学ぶ信州学・総合的な学習の時間

～地域に足を運び、取材し、発信する体験～

(11月22日)

この講座は長野大学連携講座として、蚕糸業に関する資料会や施設を取材する体験を通して、郷土を舞台とした信州学・総合的な学習の時間のあり方を考えることをねらいに上田市中央公民館を主会場に開講され、16名の方が受講されました。

<講座の主な内容>

- (講義)「長野県における蚕種・養蚕業の変遷」
長野大学環境ツーリズム学部教授 市川 正夫 先生
- (フィールドワーク)
- | | |
|---------------|------------|
| 1班 常田館絹の文化資料館 | 2班 藤本蚕業歴史館 |
| 3班 上田蚕種株式会社 | |
- (演習)「フィールドワークの成果を発信」



◆◆受講者ふりかえりから◆◆

- ・人と出会い、もの、ことに自ら触れることで魅力ある題材となり得ることが分かった。
- ・やっぱり学びってこういうことですよね。
- ・取材時、発表資料を作る時、意見を述べながらの作業はとても楽しかった。
- ・質問を繰り返し、やり取りしていくうちに学びが深まっていくことを実感した。

講座の様子



取材した内容をiPadでまとめました。



上田紬の工房を見学しました。